

中心市街地活性化プラットフォーム シンポジウム

横浜市での産官学連携コミュニティ活動の立上げからの学び
～「Aozora Factory」と「横浜をつなげる30人」の実践事例から～

2026年3月12日

慶應義塾大学

准教授 芦澤美智子



「NPO Aozora Factory」

「NPO法人Aozora Factory」は、1,000社以上の事業所が集積する“LINKAI横浜金沢（横浜市金沢臨海部産業団地）”の魅力発信と価値創造を目指し、産学官が協働して活動を行っています。

主な事業は、親子向けのワークショップイベントである「Aozora Factory」です。多種多様なこの地の「ものづくり」の技術製品を、親子向けの体験型ワークショップ（「ことづくり」）に作りかえ、1日いても遊びきれないほどの魅力いっぱいな場所を提供しています。会場には、ワークショップを運営する企業の人と学生のエネルギーで満ちています。そして、ワークショップを体験する親子の笑顔であふれています。

これからも私たちは、産学官で協働して「Aozora Factory」を企画運営し、“LINKAI横浜金沢”の魅力を発信していきます。そしてたくさんの方が交わるこの場所から、いずれイノベーション（新しいアイデアや商品）が生まれることを目指しています。

「企業同士が繋がり、企業と大学が繋がり、企業と住民が繋がり、行政が伴走してこの地の未来を創る。」そんなことを目指してAozora Factoryは活動しています。



Aozora Factory発足の経緯①

- 2013年12月 横浜市立大学COC(Center of Community)事業キックオフイベント
- 2013年11月 大学地元の工業団地を初訪問
- 2014年11月 工業団地のお祭 (PIAフェスタ) にゼミとして参加
- 2015年10月 2年目でギネス世界記録達成→「次は何をやってくれるの？」



約120人が参加したワークショップ



神奈川県で唯一、文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に2013年度採択された横浜市立大学（横浜市金沢区瀬戸22、布施勉学長）は12月13日、事業キックオフイベントを開催した。（2013-12-14）

[記事を読む](#)

Aozora Factory発足の経緯②

産学官交流の対話をスタート→地域の魅力を発見



「LINKAI横浜金沢」の最大の魅力＝多種多様な製品・技術



Aozora Factory発足の経緯③

「ここでホンモノのキッズニアがしたい」

「Aozora Factory」 = 中小企業版キッズニア



2016年～2025年までに12回実施



2016年10月@PIAフェスタ
(WS数13, 来場者650人)



2017年12月@三井アウトレットパーク
(WS数6, 来場者750人)



2025年11月@泥亀公園
来場者1,800人

2018年に法人化し現在も活動継続



代表理事（共同代表）

本多竜太（関東プリンテック（株） 常務取締役）

芦澤美智子（横浜市立大学 准教授）

役員（理事）

梅宮さや香（（株）ヨコハマ機工 専務取締役）

山口智之（（有）協和タイヤ商会 代表取締役）

植松絵梨佳（東海シヤリング（株） 執行役員総務部長）

コミュニティと組織

コミュニティ

Hillery (1955)によれば、コミュニティの最低限の共通項は

「地域性 (area)」 * 昨今では地理的特性を必ずしも含まないコミュニティの考え方もある

「社会的相互作用 (social interaction)」

「共通の絆 (common tie)」

組織

Barnard (1971)によれば、(公式) 組織とは「意識的に調整された2人またはそれ以上の人々の活動や諸力のシステム」。その維持存続の要件は「共通目的」「貢献意欲」「意思疎通」

その明らかな違い

コミュニティには「地域性」があり、組織には「共通目的」がある

コミュニティ開発と組織開発

コミュニティには「地域性」があり、組織には「共通目的」がある

→コミュニティには共通目的がない

→NPOを作って共通目的を掲げる

各方面からの注目

- 若い世代の活発な活動への期待
- 自主的な形成
- 産学官の連携、中小企業と大企業の連携

しかし目的共有に困難をきたす

- 地域の閉鎖性（保守性）と「よそ者」への抵抗
- 経済性の伴わない活動への違和感（中小企業の資源余剰の少なさ）

横浜をつなげる30人 (2020年～)

横浜をつなげる30人のこれまで

時期	内容
2020年前半	横浜市立大学の教員である芦澤先生、吉永先生が発起人となり準備開始
2020年後半	第一期をスロージノベーションさんのフルサポートで実施
2021年後半	第二期を実施。第二期の運営を第一期のOBがやる形で実施
2022年後半	第三期を実施。同じく第二期のOBが中心となって実施
	活動休止
2024年前半	第一期～第三期までのOBが集まり、これからの横浜をつなげる30人について協議
2025年後半	毎年「サポーター」という形で幹事メンバーを出して進めて行くことで第四期の再開



ミライストチーム（第一期）



メンバーと、最初の興味

高野さん	日揮HD
田中さん	ETIC
福田さん	富士通
河野さん	三菱地所
林さん	IT系
磯田さん	横浜市役所
小泉さん	建築デザイナー
彌富さん	BOSH



掲げた理想と、仮説

企業や組織の壁を超えて自由に働ける街



越境を横浜の文化として作る事ができる？

各人のスキルを活かして協力し合える街



誰が何のスキルを持っているか分かると便利？

誰かの課題を皆で考えてイノベーションを生む街



自分の分野の課題でなくても活かせるアイデアは出る？

活動サマリーと今後の予定

2020/10
キックオフ

※Zoomで毎週
会議を実施

2021/3 & 2021/5
ミライストラボ実施

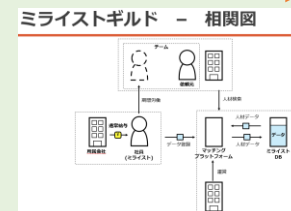
※現在も
定期開催中

2021/7
大企業人材の中小企業支援

最終発表

2023/1
横浜越境アワード創設

20XX/X
ミライストギルド始動

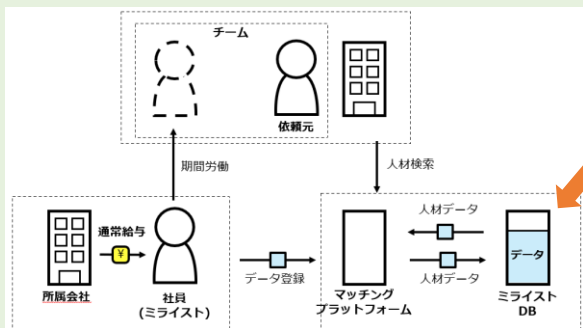


総括

仕組み作りの前に文化づくりが大切と感じ、定期的なイベント開催した結果、成果は少しずつ出てきている。今後は行政の公的支援も受けながら、認知度を上げて、「ミライの働き方ができる街ヨコハマ」を作って行きたい。

ミライストチーム（第一期）からの派生起業

起業に至った経緯



越境文化の醸成後、ミライスト活動の目標は「地域の越境マッチングプラットフォーム」の作成でしたが、その為には横浜で働く人のスキル可視化が必要でした。

しかし市販システムに「会社を超えて同じスキル分類で検索できる」ものはなく、かといって有志活動の中で新しいシステムを作るのは極めて困難でした。

そこで、ミライストチームの高野さんが地域有志団体「横濱OneMM」を中心に、メンバーを募り、スキル可視化システム「ユニクル」を副業起業しました。ミライストチームもサポーターとしてシステム開発に協力しています。

スキル可視化システム ユニクルⅡ



「検索のし易さ」を目的に一年かけて整理されたスキル分類に、経験・学習・他者からの賞賛をポイントとして習熟度を定義。

ゲーム的に自分を育てるシステムでかつ、職場で褒め合う事も促進される為に、組織力の向上もできます。

2022年度横浜市スタートアップ社会実装推進事業にも採択され、横浜市役所職員への試験導入も開始済です。

最終的に横浜エリアで広く産官学への導入を目指しています。



ユニクルとミライストでの定期的な壁打ち会を目指す世界は同じ！

多文化協働チーム（第1期）



メンバーと、最初の興味

品川さん	An-Nahal
加藤さん	コクヨ
田中さん	日揮
吉永さん	横浜市立大学
深谷さん	横浜市



掲げた理想と、仮説

外国人材との交流をもつとハードル低くする



言語の壁を感じない場の設計ができるのでは？

多文化共生から多文化協働の街横浜へ



分断ではなく、一緒に学ぶ、一緒に挑戦する機会を作る？

楽しみながら多文化環境に飛び込む人を増やす



小さな成功体験を作ること意識が変わる？

活動サマリーと今後の予定

2020/10
キックオフ

2021/3
留学生向けキャリアイベント

2021/5
多文化協働プログラム
SHIP開催@京セラ

最終発表

2021/12、2022/2
多文化協働プログラム
SHIP第2弾、第3弾開催

2022/5
英語でアントレ講座開催
@横浜市立大学

2022/5
トヨタ財団採択
プロジェクト開始



総括

当初は多文化共生から多文化協働へをキーワードに多文化協働プログラムSHIPを開催しました。そこから発展し、英語での起業家教育、留学生と日本人ビジネスパーソンへのメンタリングプログラム、外国人起業支援と事業として広がり横浜がグローバル人材と協働しイノベーションを生み出す土壌作りに今後も取り組んでいきます。



Mission

「人と想い、
見つけて繋げてステキな横浜を」

Vision

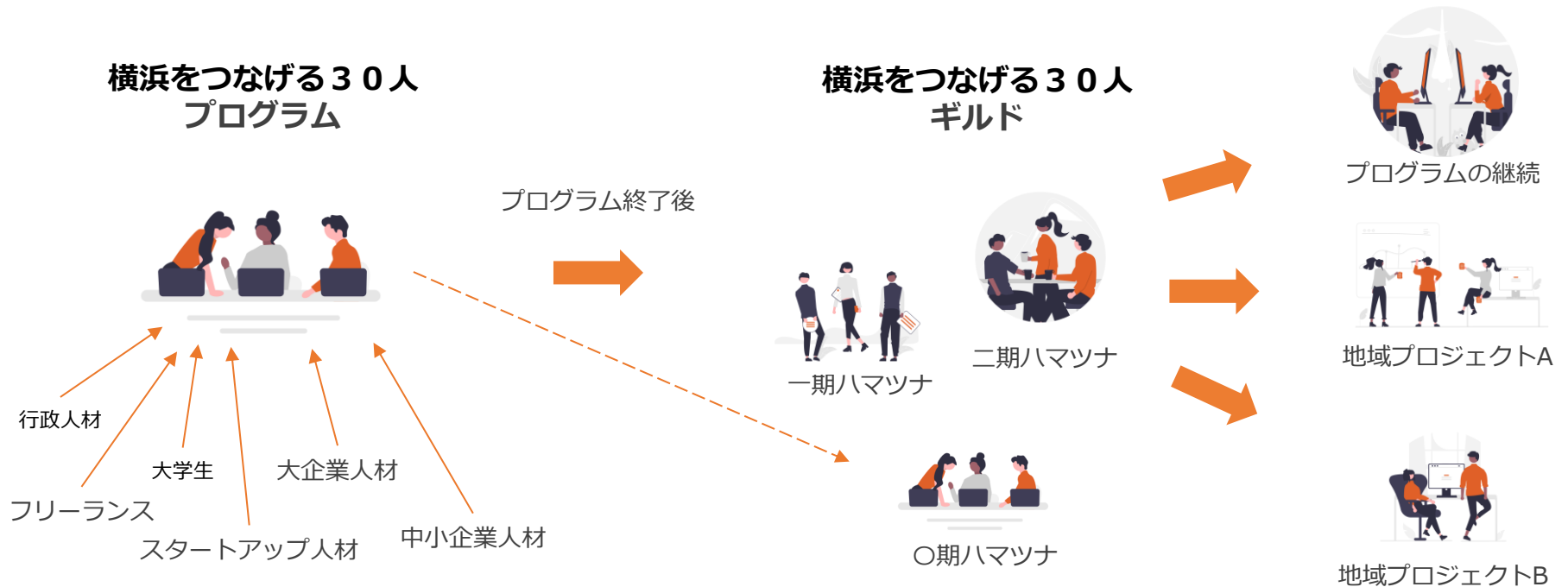
「街の同級生たちが、地域に貢献できる
エコシステム（インフラ）を作る」

Value

「選択肢を愛と共に論じ尽くす」
「全員に輝く価値と瞬間がある」
「行動ファースト」

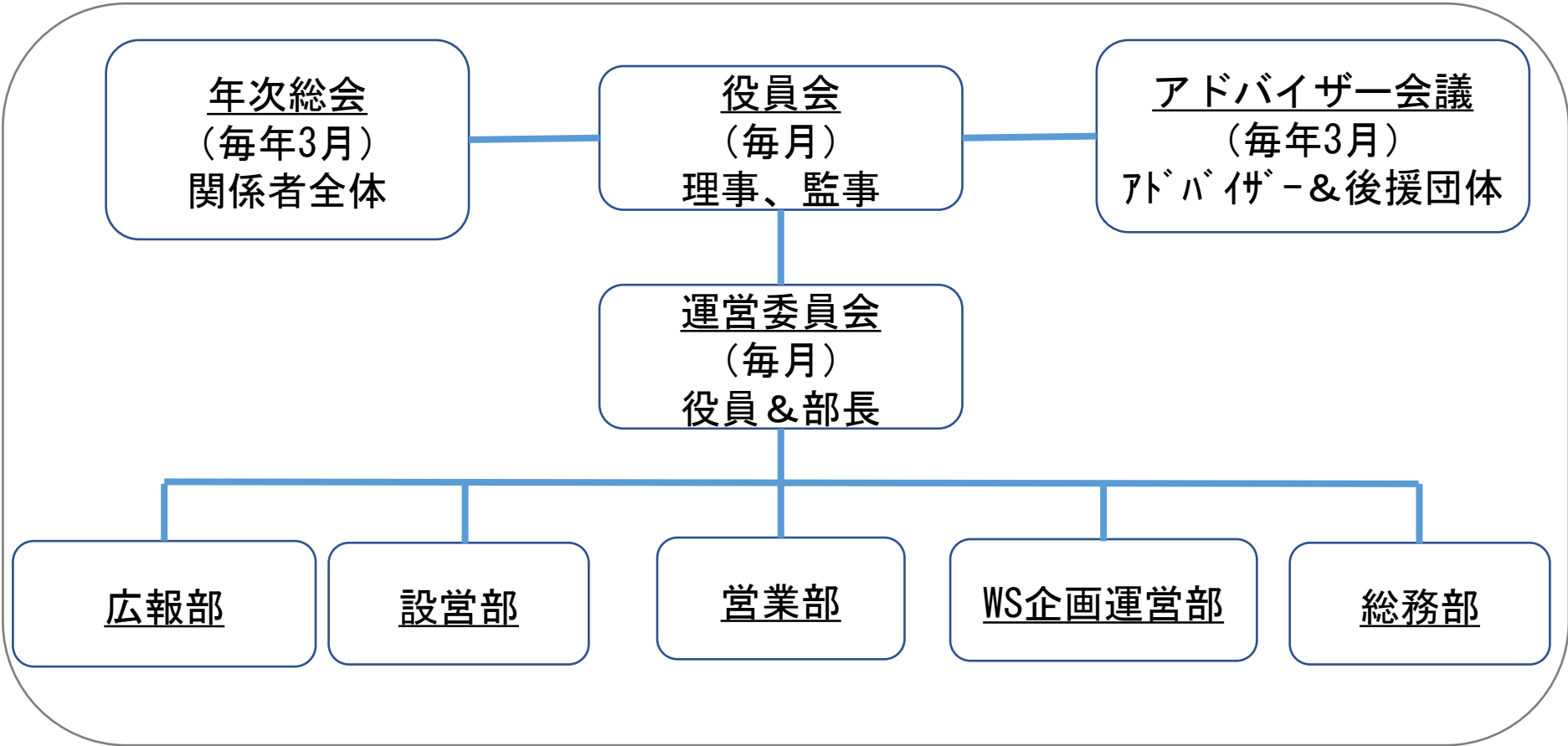
横浜をつなげる30人

つなげる30人のプログラムを通して、物事の進め方や地域のステークホルダーを知り、プログラム終了後はハマツナ（仮）として地域プロジェクト等に期を超えて関わる。



參考資料

Aozora Factory法人設立時運営体制



出展者向け説明会
(1-3回)
運営者&学生&出展者&連携先

Aozora Factoryが目指すもの

- 1 「Aozora Factory」を通じて横浜市金沢区の魅力を発信する
- 2 産学官で「Aozora Factory」を実施し、その協働を通じて地域コミュニティを構築する
- 3 若い世代の「Aozora Factory」参加機会を提供し、この地を支える次世代を育成する
- 4 ここからイノベーションを生み出す
- 5 そして、、、金沢臨海部産業団地全体を「Aozora Factory」としてつなげ、産業団地リノベーションのモデルケースとする



Aozora Factory後援団体

横浜市経済局

金沢区役所

横浜金沢区工業団体連絡会

横浜金沢産業連絡協議会

横浜市金沢団地協同組合

横浜シーサイドフォーラム

横浜市立大学

株式会社横浜銀行

横浜信用金庫
